

天敵等への展着剤の影響

アリスタ ライフサイエンス株式会社 展着剤影響表 第34版

商品名	アフィパール		キフパール		スパイカルEX		スパイデックス		クケミス		スワルスキー		リモニカ		タイリク		エンストリップ		エルカード		ミドリヒメ		ホタニガード		マイコタール		ハチスター		トリコデソイル		ナチュポール	
種類名	コレマン アブラハチ		キフ アブラハチ		ミヤコ カブリダニ		チリ カブリダニ		クケミス カブリダニ		スワルスキー カブリダニ		リモニカ カブリダニ		タイリクヒメ ハナカメムシ		オンジツ ツヤコハチ		サバク ツヤコハチ		ハモグリミドリ ヒメコハチ		ホーベリア ハシアーナ		パーテイシウム レカニ		ハチルス スフチリス		トリコデルマ ハルジアナム		マルハナハチ	
	影	残	影	残	影	残	影	残	影	残	影	残	影	残	影	残	影	残	影	残	成虫	分生子	孢子	芽胞	孢子	残	残	残	残	残	残	
アイヤー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アピオンE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アプローチBI	-	-	-	-	○	1	○	1	-	-	◎~○	1	-	-	◎	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サブマージ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スカッシュ	-	-	-	-	○	1	○	1	-	-	○~△	1	-	-	△	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クミテン	-	-	-	-	◎	0	◎	0	-	-	◎	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
グラミン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ダイコート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	0	-	-	△	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ドライバー	-	-	-	-	◎	0	◎	0	-	-	◎	0	○ (2000倍◎)	1	○ (5000倍◎)	1	◎	0	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-	-	-	0	
ニーズ	-	-	-	-	○	1	○	1	-	-	○~△	1	-	-	○	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブラボー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブレイクスルー	-	-	-	-	○~△	0	○~△	1	-	-	△~×	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイリノー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
まくびか	-	-	-	-	○~△	1	○~△	1	-	-	△~×	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ミックスパワー	-	-	-	-	○	1	○	1	-	-	△	1	-	-	△	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

本表は、日本生物防除協議会会員各社、農薬メーカー、国内の公的試験研究機関、IOBC、Koppert社、その他海外情報などの資料を元に、現場での実態を考慮して独自の解釈を加えて作成したものです。今後必要に応じて改訂されます。

表中の略字・記号の意味について

影：卵・幼虫・成虫・マミー・蛹・孢子に対する影響を総合的に評価したもの（◎：影響が小さい ○：若干の影響あり △：影響あり ×：強い影響あり）

評価基準の目安 室内試験での補正死亡率(%) ◎≤30、30<○≤80、80<△≤99、99<× 野外・半野外試験での補正死亡率(%) ◎≤25、25<○≤50、50<△≤75、75<×

残：その農薬が天敵やマルハナバチに対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数です。数字の横に↑があるものはその日数以上の影響がある農薬です。

・展着剤の天敵類に対する影響は、散布頻度や希釈倍率、散布液量、環境条件等で変わってくる可能性があります。薬液乾燥後は影響がありません。

・ポタニガードESおよび他の微生物農薬については、有効成分の菌に対する薬剤の影響について表記したものであり、混用による薬害の有無を示したものではありませんのでご注意ください。

・マルハナバチに対して影響がある農薬については、その期間以上巣箱を施設の外に出す必要があります。影響がない農薬(日数0)でも、散布にあたっては蜂を巣箱に回収し、薬液が乾いてから活動させてください。

・表中の影響の程度および日数はあくまでも目安であり、気象条件(温度、降雨、紫外線量など)で変化します。このため本表を参照して生じたいかなる損害についても当社は責任を負いませんので、ご了承の上でご使用ください。